

～QC活動～

# 調剤レセプトの査定をなくそう！

サークル名：IJKQC7

小林美香<sup>1)</sup> 水野直美<sup>1)</sup> 稲葉名美<sup>1)</sup> 中村尚代<sup>1)</sup>

清水利枝<sup>1)</sup> 大橋 洸<sup>1)</sup> 岡本祐季<sup>1)</sup> 土田千賀<sup>2)</sup>

## 【テーマ選定】

表1：テーマ選定表

	質の向上	自己啓発	上位の方針	本質的か	全員参加	緊急性	実現可能	6ヶ月	合計点	順位
調剤レセプトの査定	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	○	21	1
未収金の回収	◎	○	◎	○	△	○	△	△	15	3
保険証の確認	◎	◎	○	△	○	△	○	○	16	2

医療機関がレセプトで診療報酬を請求するように、調剤薬局においてもレセプトにより調剤報酬の請求を行っている。1500点以上の調剤報酬レセプトは、医科のレセプトと突合されて審査され、適応病名が無かったり、禁忌の病名が存在する場合や用量を超えて投与されている場合等に査定対象となる。そして査定額の負担は処方を行った医療機関が負う事となる。その為、調剤レセプトの査定を減らすことが、クリニック全体の査定減少につながると考え、テーマを決定した。

## 【現状把握】

調査期間、対象は、平成21年12月、平成22年1月分の支払基金及び国保連合会からの診療報酬相殺通知書による調剤レセプトの査定を理由ごとに分類し、査定額を算出した。クリニック外来の査定額 1,103,635 円、調剤レセプトの査定額 615,840 円、よって全体に占める割合は55.8%であった。

主に病名もれとされるA査定が82.8%を占めていた。調剤レセプトの査定中A査定が82.8%を占めることから、A査定の中でも点数の高い薬剤及び投与の多い薬剤に注目し、7剤をピックアップした。

<sup>1)</sup> 福井総合クリニック 医療事務課

<sup>2)</sup> 福井総合病院 放射線科  
(受付日 2010年12月)

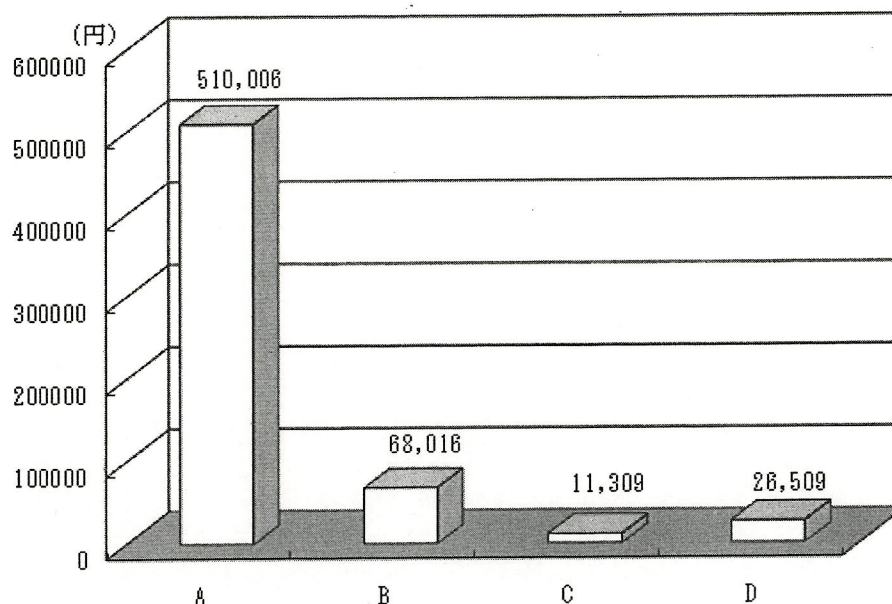


図1：査定理由毎に分類した査定額

- A 適応と認められないもの（主に病名もれ）
- B 過剰、重複と認められるもの（投与量、投与日数、実施回数等）
- C 医学的不適当（禁忌を含む）
- D 前各号の外不適当（疑義解釈通知等に照らして不適当なものを含む）

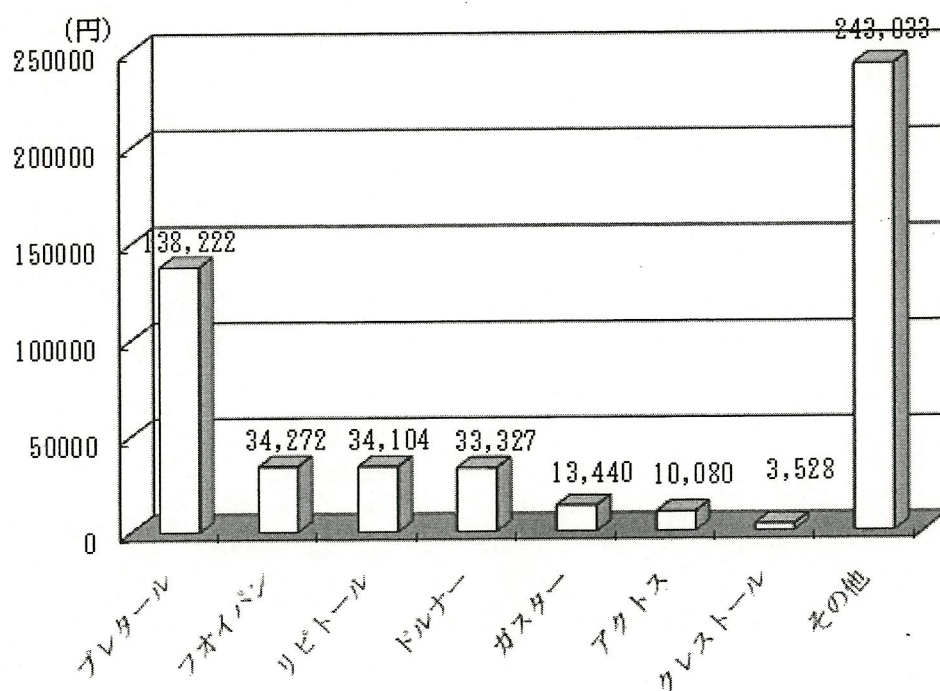


図2：ピックアップした7剤の査定額

調剤レセプトの査定中A査定が82.8%を占めることから、A査定の中でも点数の高い薬剤及び投与の多い薬剤に注目し、7割をピックアップした。

## 【目標設定】

7剤の合計が266,973円と調剤レセプト査定額の43.4%を占めていたため、この7剤に重点を置き対策をたてることにした。また調剤レセプトの査定金額の43.4%減少を目標とした。

## 【要因解析】

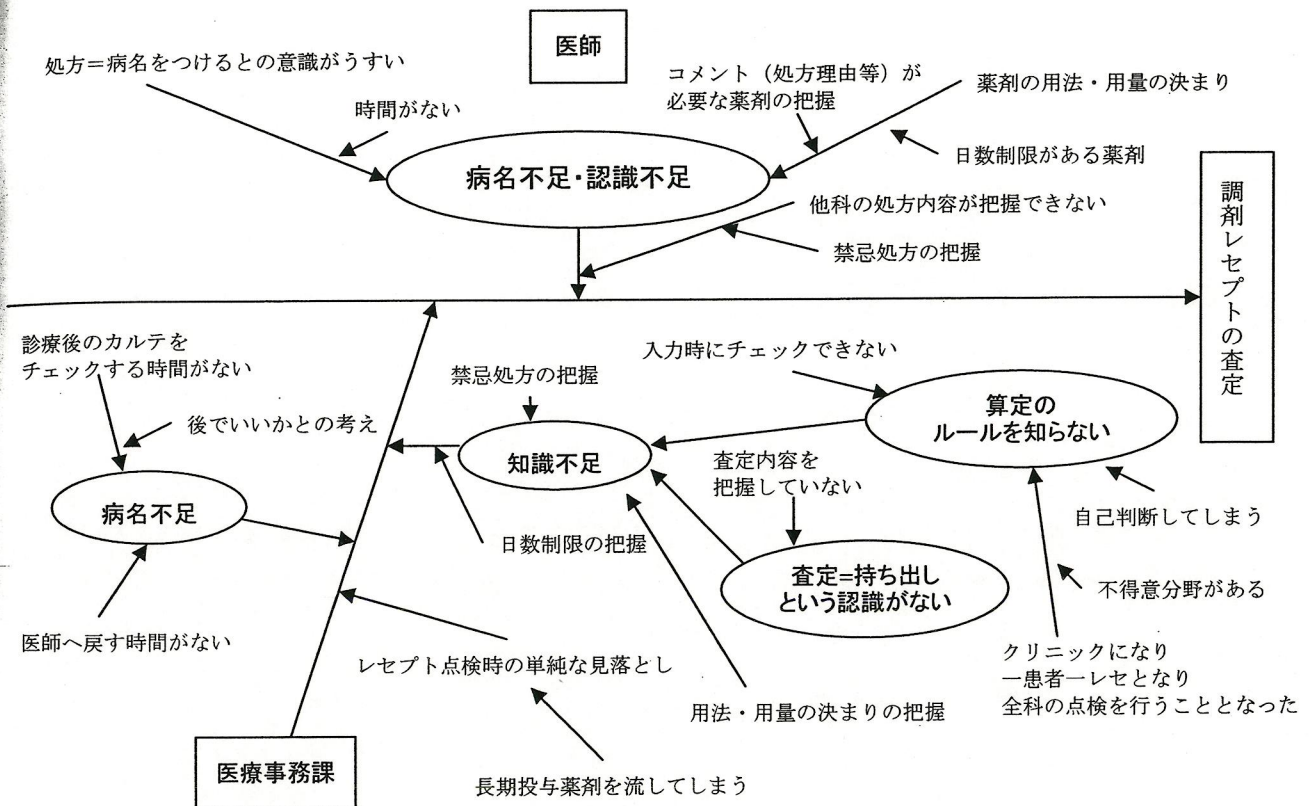


図3 要因の検証

要因解析として、レセプト点検時に病名不足であることを認識できていないことや、一患者一レセということで全科の点検を行うことになり不得意分野に対する知識不足が考えられた。



## 【対策立案】

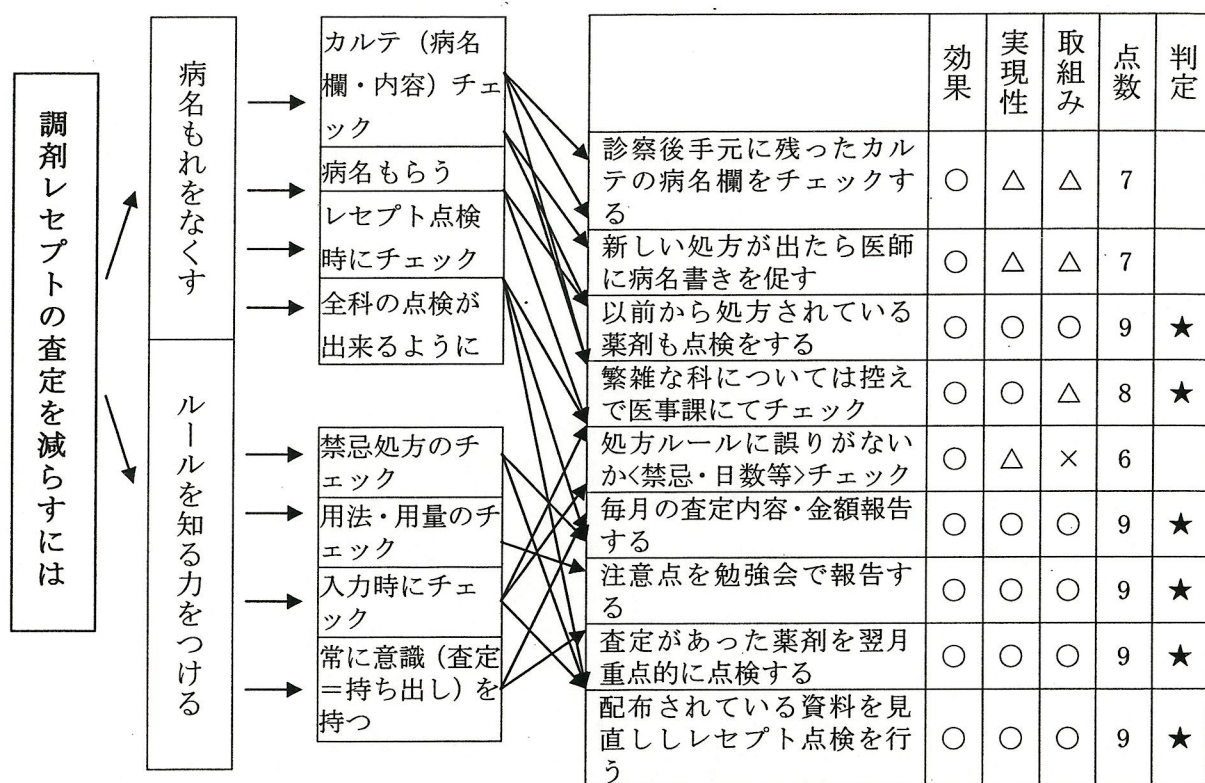


図4：「調剤レセプトの査定を減らすには」の系統図

## 【対策実施】

表2：対 策 表

何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
病名	もらさないように	医療事務職員	レセプト点検時	医事課	以前から処方されている薬剤の見直しを行う
病名	もらさないように	医療事務職員	当日又は翌日	各外来	医師に新規病名・追加病名の記載を依頼する
意識	持ち続けるために	室長	毎月	勉強会	査定内容・金額を報告する
病名	もらさないように	医療事務職員	毎月	勉強会	注意点を報告しあう
病名	もらさないように	QC メンバー	点検最終日	サークル	7剤の点検（トリプルチェック）を行う
全科	点検が出来るように	医療事務職員	レセプト点検時	医事課	配布された資料を見直す

### 【効果の確認】

平成 22 年 6 月、7 月分について、現状把握時と同じように査定理由ごとに分類し、査定額を算出した。

「有形効果」

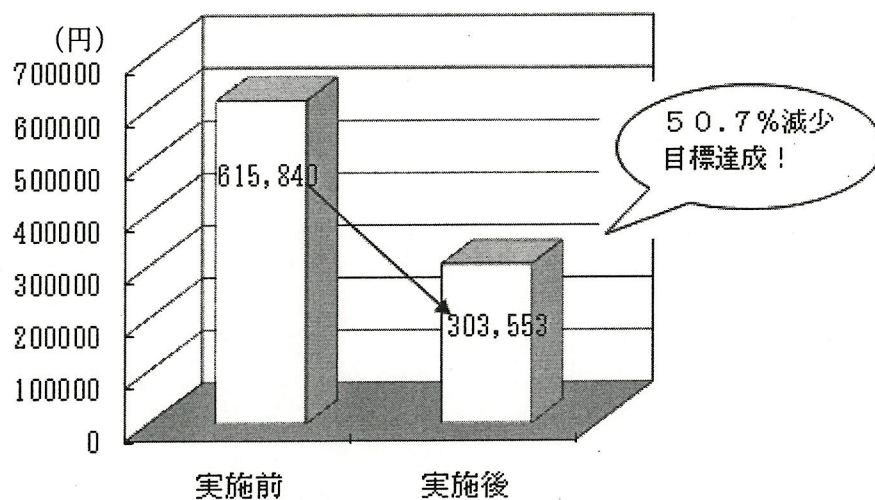


図 5：対策実施前、実施後の調剤レセプトの査定額

調剤レセプトの査定額は実施前 615,840 円が実施後 303,553 円となった。  
減少率は 50.7%で目標は達成された

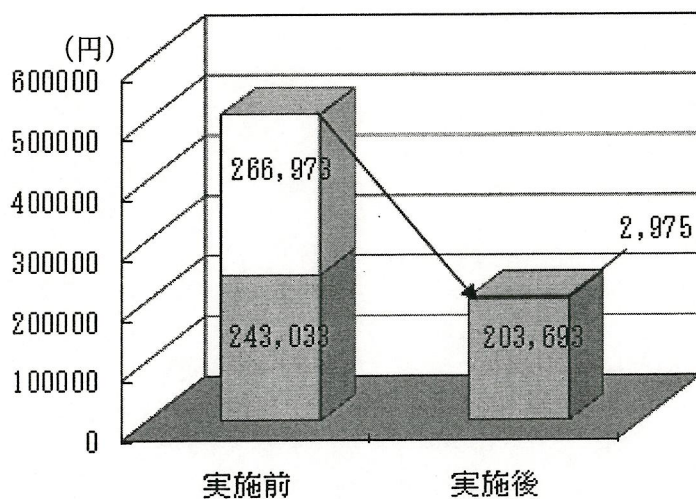


図 6：対策実施前、実施後のピックアップした 7 剤の査定額

主に病名もれである A 査定が 510,006 円から 206,668 円へ 59.48% の減少、重点を置いた 7 剤は 266,973 円から 2,975 円へ 99.99% の減少、7 剤以外においても 243,033 円から 203,693 円と 16.19% の減少となった。

#### 「無形効果」

7 剤に対して QC メンバーが 3 次点検をすることにより、医事課職員に注意を促すことができた。勉強会において、査定内容を報告することにより、査定金額の負担は処方を行った医療機関が負う事となるという認識ができた。

#### 「波及効果」

処方された薬剤に対して探究心をもつことにより、個人の能力アップにつながった。

#### 【活動の反省】

7 剤以外の薬剤に対しても目を向けるべきであった。人為的ミスを防ぎきれなかった。長期間の活動が必要であった。

#### 【標準化と管理の定着】

表 3：標準化と管理の定着表

	何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
標準化	病名	もれないように	医療事務職員	レセプト点検時	医事課	以前から処方されている薬剤の見直しを行う
	病名	もれないように	医療事務職員	当日又は翌日	各外来	医師に新規病名・追加病名の記載を依頼する
	意識	持ち続けるために	室長	毎月	勉強会	査定内容・金額を報告する
	病名	もれないように	医療事務職員	毎月	勉強会	注意点を報告しあう
教育	全科	点検が出来るように	QC メンバー	毎月	勉強会	査定のあった薬剤についての資料を配布する

#### 【まとめ(今後の計画)】

調剤レセプトの査定金額は減少し、目標達成となった。しかし調剤レセプトの査定をゼロにするためには今後も引き続き QC 活動や勉強会での教育を継続し、人為的ミスを防ぐ為にも、コンピューターによるレセプトチェックの利用強化を図っていく必要があると考える。